

01 実施方針 | 地域おこし協力隊員実施業務

以下業務を隊員にて推進（必要に応じた隊員の募集・採用を実施）。各成果指標の達成を通過点として、地域と協力隊員の特性を踏まえブラッシュアップを繰り返しながら活動を推進していく。

各隊員の業務概要

関係人口創出・移住定住促進

- 移住・定住推進施策の企画・遂行
- 移住希望者からの相談対応業務
- 移住・定住に伴う各種支援
- 情報発信業務（ポータルサイト・SNS等を活用した情報発信）

空き家問題の解決に取り組む 地域の体制整備と強化

- 移住・定住促進に紐づく空き家活用施策の遂行
- 空き家に関する相談対応・データ整理業務
- 空き家解決を担う体制の構築
- 空き家所有者と利活用者のマッチング
- 情報発信業務

地域資源の発見・開拓・活用による 地域商材の開発と販路開拓

- 地域資源の発掘・商材化業務
- ふるさと納税に係る生産者や事業者の橋渡し業務
- 地域商材開発・販路開拓に紐づく地域事業者支援
- 情報発信業務

必要性等を考慮し、隊員の練気による柔軟な業務遂行

※募集時点の情報となります。内容については田村市様と協議の上変更になる場合がございます。

1. 移住・空き家問題推進業務

(1) 移住・定住者獲得推進施策の企画・遂行

田村市、Switch等と共に、田村市における移住・定住者獲得のための施策に取り組む。
※新型コロナウイルス感染症の影響も考慮し、可能な範囲で柔軟に対応。

(2) 移住希望者からの相談対応・移住前後の支援

テラス石森に設置された「田村移住相談室田村サポートセンター」の運営を担い、移住関心者・希望者の窓口として希望者をサポート。移住・定住ポータルサイト「たむら暮らし」を中心とした、電話・メール等問い合わせ対応～現地案内等、要望に応じたマッチング業務を行う。

(3) 関係人口創出、移住・定住に紐づく情報発信

地域プレーヤー、地域資源、活動、施策等の紹介を、移住・定住ポータルサイト「たむら暮らし」・SNSに随時掲載。効果的な時期に合わせた情報発信の他、ツアー、空き家の情報発信も担います。

(4) 空き家相談窓口の運営による移住希望者と所有者のマッチ

「田村空き家の窓口」の運営による以下の実施
●空き家の情報収集・データ整理・物件情報の発信 ●希望者マッチング

➡ **関係人口、移住・定住者の獲得、空き家問題の解決**

2.地域資源のブラッシュアップ・魅力化

(5) 豊かな地域資源を探求し、ふるさと納税に係る生産者や事業者の橋渡し

- 産業部・財政課・Switchが連携した田村市内の地域資源・商材を掘り起こし。
- ふるさと納税を活用した、生産者・事業者の事業活性につなげる。
- 生産者や事業者を地域プレーヤーとした移住メディアの効果的な情報発信。

(6) 地域産品のブラッシュアップや魅力発信

- 地域産品のブラッシュアップ
→必要に応じ有識者を加え、企画・デザイン・ブランディング・販路構築等を実施。
(株)Shift・猪苗代レイクリゾート小田嶋氏等を想定。
- 魅力発信
→移住ポータルサイトやSNS等を活用し、時期や目的を考慮した情報発信を行う。
産品のPR、ふるさと納税活性、田村市ファン・交流人口の獲得を目的とした情報発信とし、
産業部・財政課との連携にて実施。

(7) 上記に掲げるもののほか、移住・定住促進及び地域振興につながる活動

- 事業を実施する上で必要・効果的と判断される事柄については随時実施。
→業務を遂行する中で生まれる繋がりや事柄等を、事業推進へ活かす。
- 先進的な取り組みの研修・連携。

➡ 田村市産品の強化・創出、ふるさと納税活性化、田村市ファン創出

02 隊員詳細

02 隊員紹介

地域おこし協力隊 活動継続3名・新規着任4名

※2023年3月31日時点

継続



中山 真波

着任/2020年5月18日～
着任前住所/東京都荒川区
主担当/地域商材開拓

継続



菅野 千恵子

着任/2020年7月1日～
着任前住所/神奈川県川崎市
主担当/関係人口創出
・コミュニティ形成

継続



佐久間 朱妙

着任/2021年7月5日～
着任前住所/東京都港区
主担当: 空き家対策

新規



佐々木 馨

着任/2022年4月1日～
着任前住所/宮城県仙台市
主担当/空き家対策
・コミュニティ形成

新規



岡寄 大治郎

着任/2022年4月1日～
着任前住所/神奈川県相模原市
主担当/関係人口創出
・移住定住促進・林業人材確保

新規



熊谷 優希

着任/2022年8月25日～
着任前住所/東京都港区
主担当/関係人口創出
・移住定住促進

新規



石井 真理枝

着任/2022年10月3日～
着任前住所/福岡県博多区
主担当/関係人口創出
・移住定住促進

03 隊員の活動状況

- ①地域商材の開発と販路開拓
中山 真波

(1) 農産物活用の加工品（納豆）開発・販売サポートを実施

●納豆「せがわくん」「せがわちゃん」の企画・実施

<生産団体> やってみっ会(瀬川地区)

<企画詳細> 遊休農地を活用し小粒大豆と黒千石の2種の大豆を生産
納豆製造加工業者にて委託加工。田村市内の直売所で販売

<サポート内容>

6次化商材の立上げ、販路、価格設定、パッケージについて下記サポートを実施

- ・ターゲット選定：お土産需要を柱とするターゲット設定
- ・価格：日販商材と異なる、お土産品としての価格帯を設定
- ・食べ比べ：二種の大豆を使用することによる食べ比べ需要の設定
- ・パッケージ：2種の大豆を楽しめる男女のデザイン「せがわくん」「せがわさん」を提案

<販売先> ふあせるたむら

<効果>

- ・遊休農地の活用
- ・新たな商材が生まれたことによる、地域の魅力や注目度向上
- ・販売商材による、経済活性や地域活性化の創出

<今後の展開>

- ・ふるさと納税返礼品への起用
- ・地域外での対面販売等

<課題点>

- ・担い手不足
 - ▶地域の高齢化と若手の生産者がいないため、農業の衰退への危惧が予想される。
- ・生産能力の高止まり
 - ▶担い手不足による、生産能力に限度があることから、販路拡大へつながらない。



(2) 農産物を活用した体験事業を実施（継続事業：3年目）

●大豆を活用した、昔ながらの味噌づくり、納豆づくり体験

<イベント> 発酵食ワークショップ

<体験開催日> 12月27日、1月21日

<企画詳細>

- ・味噌作り・納豆作り体験/味噌づくり（学び）の場の創出
- ・試食会/昨年度に行った味噌づくり体験の味噌を活用した味噌活用の創出

<効果>

- ・食を通じた学びやコミュニティの場の創出
- ・親子参加による地域食の伝承の場の創出
- ・地場産品活用の体験プログラムの創出
- ・将来の展望として、体験プログラムの商品化



(3) 遊休農地を活用した、畑から繋がるコミュニティづくりを実施

●遊休農地活用による、農ある暮らしを提案

<企画・活用>

- ・じゃがいも植付け・夏野菜定植体験
- ・夏野菜収穫・さつまいも苗定植体験
- ・サツマイモ彫り・収穫
- ・サマーボランティア受入れ（市内中高生、大学生）
- ・移住者交流会/農業体験

<効果>

- ・栽培野菜を活用した料理教室や提供
- ・遊休農地活用
- ・畑を通じた学びの場とコミュニティ形成の創出
- ・地場農産物の活用
- ・農ある暮らしの提案や就農等の興味関心者への体験の機会の場の創出



(4) 都路地区のコミュニティ形成と学びの場創出に向けた取り組みを実施

●体験事業実施における藍栽培とサポート

<イベント> 田村の藍で体験する染物と織物体験

<体験開催日> 9月15日、9月29日、10月13日、10月27日

<展示会> 11月7日～11日

<企画詳細とサポート内容>

- ・ 藍染体験／テラス石森で栽した藍を使用して制作
- ・ 織物体験／2週に渡るウールマフラー制作
- ・ 作品展示会／都路事業者古民家を活用した作品展を実施

<効果>

- ・ 手仕事を通じた学びの場とコミュニティ形成の創出
- ・ 地場の農産物を活用
- ・ 事業展開を視野に、地域資源を利用した体験プログラム基盤構築の参考となる。



(5) 地域住民への認知向上に向けた感謝祭「イシモリフェス」の企画・運営

●イベント企画・運営

<イベント> イシモリフェス

<開催日> 12月17日

<企画詳細>

- ・ 地域おこし協力隊員の紹介、出会える場の創出
- ・ 地域事業者・生産者等の飲食、販売機会の創出
- ・ ワークショップ開催による、体験・学びの場の創出

<効果>

- ・ 地域おこし協力隊の認知、活動紹介の場の機会創出
- ・ 地域住民とのコミュニティの場の創出
- ・ 廃校活用の事例紹介の場の創出



03 隊員の活動状況

②関係人口創出・移住定住促進
菅野 千恵子

(1) 地域の受け皿・地域ネットワーク拡大

移住関心者・検討者への「情報・安心・魅力・希望」の提供のために、必要な地域の受け皿を整備。地域プレーヤーを巻き込み、体験コンテンツの提供、移住者・移住検討者へ情報提供のサポートを実施。

●地域住民と移住者の交流イベントの企画運営



コミュニティ農園での収穫体験や、餅つき、方言カルタなど、子供から大人までが楽しめるコンテンツを企画。

- イベント名：「わくわく！ほくほく！秋のお楽しみ会」
- 実施日：2022年10月15日（土）
- 内容：さつまいも収穫、ものづくりWS、椅子ヨガ
- 場所：テラス石森

- イベント名：「わくわく！べたべた！新年餅つき大会」
- 実施日：2023年1月7日（土）
- 内容：餅つき、方言カルタ
- 場所：tokiwa+（旧常葉町保健センター）



●大学生とのネットワーク構築

→ボランティアとして関わっていただけた日大生との関係性が構築できたことで、学生主体のワークショップを企画してもらうなどコンテンツに広がり生まれた。

(2) 新規隊員の育成指導

今年度新たに着任した隊員に対して、イベント企画運営における伴走をはじめとし、そのほか業務の引継ぎや地域プレーヤーの紹介など育成指導を行った。

●新規隊員が自立できるよう業務サポートに注力

自らが2年間で培ったノウハウを伝えることで後輩を育てるとともに、隊員一人一人がジブンゴト化していく意識付けを行うことで、業務量の調整および効率化を図った。



【主な引継ぎ業務】

- イベント企画書作成方法、バナーやチラシデザインの構成作成、外部発注先との調整
- イベント実施における集客ツール作成、広告配信、配信内容の検証
- たむら暮らしのWebページやSNS掲載の方法
- イベント当日までの調整、準備、当日の場の雰囲気づくり等
- 移住相談対応フロー



(3) コミュニティ形成業務

卒隊後の自走化を視野に入れ、2022年6月より、ヨガを通じた地域住民のコミュニティ作りを始動。地域住民のコミュニティを確立し、移住者・移住検討者に対しての受け皿を作ることを目的に開催。

●定期クラスの開催

- 日 程：2022年7月～毎月第1・3木曜日
- 時 間：19:00～20:00
- 場 所：第1/tokiwa+、第3/テラス石森
- 参加費：1,500円（お土産付）

※お土産はすべて市内産を使用。

（農家さんの野菜や加工品、お菓子、デザートなど）

→参加者は30代～40代女性が中心。初めてヨガを体験される方が多かったが、参加者の約8割がリピーターとなり、回を増すごとに参加者同士のコミュニケーションが活発に行われるようになった。

→お土産を提供する際には、市内の事業者様と直接やり取りを行ったことで、活動の認知とつながりを新たに構築することができた。



●田村市内外各所でのイベント、他コンテンツとのコラボ企画の実施

田村市の魅力発信や、住んでいる方に田村の良さを再認識していただくため、田村市内外を問わずイベントを開催。また健康志向層をターゲットとした食のイベント（味噌づくり体験）や、子供向けのイベント（ものづくりWS）ともコラボさせ、親子で楽しめる椅子ヨガを提供することで、参加者の満足度をアップさせることができた。

日程	曜日	時間	場所	参加費	参加人数	備考
6/24	(金)	10:00～12:30	入水寺	2,000円（梅収穫付き）	4名	
6/26	(日)	11:00～12:00 13:30～14:30	グリーンパーク都路	2,000円（梅収穫付き）	-	雨天中止
7/2	(土)	13:30～16:00	入水寺	2,000円（梅収穫付き）	6名	
7/30	(土)	11:00～13:30	よりあい処 華	2,500円（ランチ付き）	4名	
9/24	(土)	11:00～12:00	大鷲矢ふれあい公園	無料	5名	雨天のためテラス石森で開催
10/22	(土)	11:00～13:00	スカイバレスときわ	2,000円（ランチは別料金）	3名	雨天中止
11/26	(土)	10:00～12:00	入水寺	3,000円（座禅体験・お土産付）	4名	
2/26	(日)	10:30～11:45	テラス石森	2,000円（ハーブティー付き）	9名	

→ 合計：72名の参加者との関係性構築
（田村市内64、郡山5、いわき1、三春1、小野1）



(4) 移住促進ツアーのプログラムとしてのコンテンツを創出

移住検討者を対象としたツアーにヨガを組み込むことで、田舎での特別な体験として新たな価値を提供。ツアーコンテンツの充実化を図るとともに、参加者からは満足度の高いお声をいただくことができた。

【実施した移住促進コンテンツ】

■日 程：2022年10月29日（土）～30日（日）

■場 所：滝根町入水寺

■参加者：5名（首都圏在住の移住検討者）

→お寺でのヨガ体験だけでなく、お寺の住職様による座禅体験と終了後にはお茶を点て参加者との交流を図った。



■日 程：2023年1月28日（土）～29日（日）

■場 所：テラス石森

■参加者：15名（田村市男性、首都圏在住女性）

→婚活ツアーのイベントプログラムとして実施。男女で行うペアヨガなど、会場の雰囲気をもよおさせた工夫を行った。



(5) 個別相談の実施

移住希望・検討者に対する個別相談対応の体制構築に寄与し、電話やオンラインを通じて一人一人に合わせた丁寧なヒアリングを実施。自身の卒業後を見据え、ほか隊員が同じ対応ができるよう、初期対応以降は各自に引継ぎを行いながら、連携して移住検討者のサポートを行った。

対応相談件数：52件
（現地アテンド件数：3件）

【アテンド・サポート内容】

- ・市内アテンドプランの作成、同行
- ・地域プレイヤーの紹介
- ・交通費申請書作成のサポート
- ・農家さんへの相談日程の調整
- ・空き家情報の提供、内覧の案内
- ・空き家所有者様との連絡調整
- ・生活圏内の案内 等



03 隊員の活動状況

②関係人口創出・移住定住促進
熊谷 優希

(1) オンラインイベントと現地体験ツアーを通じた関係人口構築業務

「加速化交付金事業」における関係人口の創出や地方への関心層の掘り起こしを目的とした、オンラインイベント・現地体験ツアーの企画・運営を行った。イベントを通じて参加者同士のつながり作り、関係人口構築を促進した。

オンラインイベント 全5回開催

福島県田村市に移住して活躍している地域プレーヤーに、移住前後の経緯や、移住後の生活、仕事の内容、今後の目標などを中心にお話いただくオンラインイベント（シリーズ全5回）を企画・実施。開催までの告知・広告配信や資料作成、当日の司会進行を行った。



現地体験ツアー 全2回開催

田村市民との交流を通して、田村市の魅力を感じてもらい、移住を検討してもらうためのツアーを企画・実施。開催までの告知・広告配信や関係各所の調整、当日の運営を行った。

●地域プレーヤーとつながる1泊2日の旅

参加者が田村市との継続的な関りしると地域の住民との関わり合いを見つけ、移住（週末移住含む）や2拠点生活を検討してもらうツアーを企画・運営。

→参加者の数人は福島県や田村市に度々訪れるようになった。

●1泊2日の縁結び旅

田村市外の女性が、婚活を通して田村市在住の男性と親交を深めることで、田村市の生活環境や住民について知ってもらうと同時に、田舎暮らし（移住）を前向きに検討してもらうツアーを企画・運営。

→当日は3組のカップルが成立し、イベント後2名の女性が移住を検討するに至った。



(2) 首都圏での移住検討者向けイベント対応業務

●移住フェアに相談員として参加

地方移住関心者・検討者に対し、田村市の認知度向上と個別相談機会提供を目的として外部イベントに出展。相談員として来場者対応を行った。

- 開催日：2023年1月14(土)～15(日)
- 場所：東京ビッグサイト 南展示棟1ホール
- 相談者数：14名



●田村市の魅力発信と関係人口との交流機会の創出

田村市の現状や魅力、ゲストの活動など紹介し地方への転職・移住検討のきっかけにしてもらうと同時に、田村市の食材とお酒を満喫してもらう交流イベントを企画・運営。参加者同士のつながり作りも促進。

- 開催日：2023年3月10日(金)
- 場所：横浜泰生ポーチフロント
- 参加者：9名



(3) 情報発信業務

田村市の魅力および生活や仕事情報の発信をするため、「たむら暮らし」のWEBサイトとInstagramにてイベント情報や地域の様子など掲載を行った。来年度もInstagramのリール動画やストーリーを活用した継続的な情報発信を行う予定。

●「たむら暮らし」のWEB・Instagramの掲載・運営

WEBサイトには、各事業のイベント告知開始時期に適宜掲載。Instagram運営担当になった22年9月から23年3月までのフォロワー増加数は以下の通りである。

（たむら暮らし。Instagram／820→935）



(4) 市民向けYoutuber講座の実施

様々な分野のことを学ぶ機会が少ない田村市において、学べる・教えあえる環境を整えると同時に、住民の教育意識を向上させることを目的としたイベントを企画・運営。今回は人気ゲーム実況者をゲストに招き、Youtube業界やゲーム実況の仕事内容など講演いただいた。

→市内外から参加者が訪れ、次回講座希望もあり概ね好評だった。

【概要】

- 開催日：2022年12月10日(土)
- ゲスト：Youtuber「ぼへ」氏、子安正弥氏（マネージャー）
- 参加人数：23名
- 参加費：無料
- 場所：テラス石森 大ホール
- 告知方法：チラシ配布、Facebook、Twitter



(5) 読書会（ホンノムシ）の実施

田村市民同士の交流の場を創出するために、2022年11月から月1回読書会を開催。あぶくま大学の1つのコンテンツとして、パンフレットや公式LINEチャット等で告知。来年度も定期開催予定。

【概要】

- 開催日：毎月第2金曜日または土曜日
- 参加人数：5名程度
- 参加費：無料
- 場所：テラス石森 コワーキングスペース
- 告知方法：チラシ配布、あぶくま大学Facebook・LINEチャット、パンフレット



03 隊員の活動状況

②関係人口創出・移住定住促進
岡寄 大治郎

(1) 市内林業事業者との関係性構築

移住希望者の林業就業を円滑化するために、田村市内の林業事業者との関係性構築を推進。林業事業者の求人情報等のヒアリング、事業の説明等を行い事業における理解と協力を得ることができた。

【関係性構築をした林業事業者】

- ・田村森林組合
- ・ふくしま中央森林組合 都路事業所
- ・フォレストクリエイティブ桑原
- ・よしだ森林サービス
- ・きこり工作室
- ・合同会社 森の人
- ・三浦農林



(2) 個別・現地ツアーでのアテンド実施

移住・林業就業検討者を対象に林業事業者との関係構築のサポート、田村市内の案内を実施。個別対応では見学、現地ツアーでは各所との調整、当日のアテンド等を行った。

【体験ツアー概要】

- 開催日：2022年9月23日(金)～25日(日)、2022年12月10日(土)～11日(日)
- 参加者：合計9名
- 内容：田村森林組合見学、山歩き、チェーンソー体験、薪割り体験 等

【アテンド・サポート内容】

- 市内アテンドプランの作成、同行
- 受け入れ先との調整
- 市内林業事業者の紹介
- 市内案内 等



現地ツアーアテンド：計9名
個別アテンド件数：2件

(3) オンラインイベントを通じた林業従事検討者・関係人口の構築業務

オンラインイベントにおいて、林業人材の確保を目的とした企画運営を担当。イベント当日は、司会進行の役割を担い参加者との接点を創出。イベント後もつながり、相談しやすい体制をつくった。

●オンラインイベント 全10回開催

開催年月日	タイトル	申込数	参加数
22/7/9	都会で働いていた僕が、自然と向き合う仕事を選んだ理由	30	9
22/8/11	山と仕事とWell-Being ～生活編～	21	8
22/8/19	山と仕事とWell-Being ～仕事編～	30	8
22/8/27	50年、100年先を見据える仕事 林業の魅力に迫る	53	20
22/10/19	きこりと語る。林業のあれこれ	8	5
22/11/29	きこりと語る。林業のあれこれ vol.2	17	8
23/1/13	きこりと語る。林業のあれこれ vol.3	8	4
23/1/26	12月ツアー参加者向け交流会	4	3
23/3/10	きこりと語る。林業のあれこれ vol.4	12	8
23/3/17	きこりと語る。林業のあれこれ vol.5	10	8



→関係人口81人の創出を実現。
活用可能なメーリングリスト32件を獲得。

(4) 田村市森林のブランド化に向けた取り組み

移住・林業就業検討者に向けた魅力づくりとして、福島県内初の森林セラピー認定を目指し、市内森林のブランド化を図る。今年度は田村市内の森・遊歩道の現地調査・条件要項の調査等を実施。

●次年度以降の動きについて

令和5年度：認定場所の選定

令和6年度：認定に向けた整備

令和7年度：認定に向けた整備、認定



▲片菅根山林道



▲瑞峰平山林道

森林のポテンシャル・遊歩道の整備面等、現時点で認定場所を選定するにあたり基準となる項目

項目分類	項目詳細	候補地			備考(×△の理由)
		片菅根山	瑞峰平	四重城	
セラピーロードでは感覚的評価が良好であること	・ 視覚(森林内景観、眺望景観等)が極めて良好に感じられる箇所が4カ所以上ありますか?	○	○	×	■四重城：景観・眺望が望める場所無し
	・ 全個所で聴覚(小鳥のさえずり、せせらぎ、虫等)が良好に感じられますか?	○	△	△	■瑞峰平：水音無し ■四重城：水音無し
	・ 雑音の目にも(80%超の利用者)車の音が騒音と思われる箇所はありませんか?	○	×	○	■瑞峰平：近辺に一般道路あり
	・ 歩行時の踏み心地がどなたにとっても良好に感じられますか?(80%超の利用者)	○	○	○	
	・ 森の香りがどなたにとっても良好に感じられますか?(80%超の利用者)	○	○	○	
	・ 林相は多様性を有していますか?	○	○	○	
自然の豊かさが感じられること。 (特有種を含めた樹木、草本、動物、鳥、昆虫等について多様性と維持保全体制について評価すること)	・ 生態系は多様性を有していますか?	○	○	○	
	・ その維持保全が図られていますか?	○	○	○	
	・ 人工物や景観に調和しない看板等がありますか?	×	○	×	■片菅根山：遊歩道付近に快播あり ■四重城：敷地付近に太陽光パネル・人口集積物あり
セラピーロード周辺が優良な自然環境の維持・保護制度に配慮していること	・ 法令等で自然環境や景観保護、騒音や大気汚染等を抑制する制度・規制等の対象地区であることを示してください。	○	不明	不明	

(※森林セラピー：身体・健康維持・増進、病気の予防を目的としたエビデンスに基づいた森林浴のこと)

03 隊員の活動状況

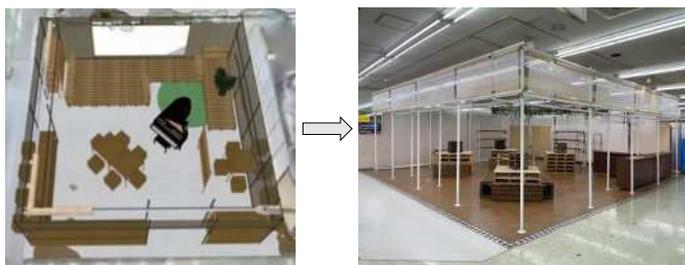
②関係人口創出・移住定住促進
石井 真理枝

（1）チャレンジショップの設営に関するワークショップ開催

田村市内で新しい取組みを展開したい人または、活動を広く知ってもらいたい人に対して、無償で使用できる場所を提供する「チャレンジショップ」をふねひきパークに設営。設営に向け、ワークショップを9回実施。

担当：企画・調整・集客・当日の司会運営

【完成イメージと完成図】



【アイデアワークショップ開催中の様子】



●アイデアワークショップ（12月2日、16日）

- ・参加者 12月2日：10名
- ・議題：「チャレンジショップでどんなことをしたい？」
「どんな場所だったら人が集まる？」
- ・参加者 12月16日：10名
- ・議題：「チャレンジショップの運営をシュミレーションしよう！」
「図面と模型を使ってレイアウトを考えよう！」

●ものづくりワークショップ1回目（1月27日、28日）

- 参加者数：2名（27日：1名、28日：1名）
- 製作物：テーブル2台、スツール5脚、本棚ベンチ2台

●ものづくりワークショップ2回目（2月10日、11日）

- 参加者数：17名（10日：9名、11日目：8名）
- 製作物：テーブル1台、スツール7脚、本棚ベンチ2台、物販棚1台

●ものづくりワークショップ3回目（2月23日、24日、25日）

- 参加者数：27名（23日目：14名、24日：6名、25日：7名）
- 製作物：ピアノ・ガーランド装飾、単管パイプ塗装、パレット（やすりがけ）、ふねひきパークへの搬入・設営

→アイデアワークショップで出された案を元に、必要な什器・備品を精査し、ものづくりワークショップで什器・備品の制作を実施。

→田村市民、日大生を巻き込んで開催することにより、田村市が行っている活動の認知と、新たなつながりを構築することができた。

●制作した備品



●ピアノ装飾の様子



●ふねひきパークでの搬入・設営の様子



(2) イベントへの出展、移住相談

東京で開催された移住相談会へ出展し、相談員として移住相談サポートを行い、関東から移住する際に感じる課題点等を知ることが出来た。

●福島暮らし&しごとフェア

開催日：2022年11月27日(日)

開催場所：東京交通会館12階（JR有楽町駅前）

相談人数：10組（延べ12名）

[性別] 男性 7名 女性 5名 [年齢層] 24～59歳



(3) 都路地域のツアーを企画するワークショップの実施

●目安箱

設置期間：2023年3月3日(金)～16日(木)

設置場所：都路行政局、よりあい処華、ホップジャパン、
みやこ旅館、泰平食堂、石井プロパン

投稿数：8件

→地域の方、ワークショップ参加者以外からの要望を取り入れるための目安箱を設置



●来んせ都路！ツアー企画ワークショップ

開催日：2023年3月19日(土)

開催場所：よりあい処華

議題：「都路の魅力とは？」「ツアーを企画しよう」等

参加者：17人

担当：ワークショップ企画・運営



都路地区へのツアーを企画するワークショップを実施。

→都路地区に住んでいる、または都路地区の活性化に積極的な人たちと意見を交わすことにより新たな関係性を構築する事が出来た。また、ワークショップを開催するだけでなく、その後のツアー展開も視野に入れた企画にすることで、今後の長期的な関係性と、住民が中心となる移住施策を展開するきっかけづくりが出来た。

03 隊員の活動状況

③空き家対策/コミュニティ形成
佐久間 朱妙

(1) 空き家相談窓口の運営

田村地域における、空き家は現在増加傾向となっており、地域の空き家対策の可視化を図るため相談窓口の拡充・運営を実施。

●空き家相談窓口の運営

個別相談受付 平日10：00～17：00（土日祝を除く）
対面相談（テラス石森）、オンライン相談可能

●令和4年度相談件数：累計140件（令和3年度比：+47件）

【内訳】所有者相談：78件（売却60件、賃貸10件、解体5件、その他3件）
利活用希望：62件（購入35件、賃貸27件）

●相談窓口のイベント出店

ActTOKIWA主催のマルシェ『toco*』（6月19日）
石森フェス（12月17日）



●出張相談窓口の開設

第1木曜日：滝根行政局
第2木曜日：大越行政局
第3木曜日：都路行政局
第4木曜日：tokiwa+（常葉保健センター）



(2) 空き家の情報収集及び提供業務

空き家バンクに加え、YADOKARI社提供『空き家ゲートウェイ』を導入し、空き家の掘り起しと登録促進を実施。

●令和4年度空き家空き地情報バンク登録件数：25件

空き家バンク登録の説明、現地調査、報告書の作成の一連の業務を担う。

●YADOKARI社提供『空き家ゲートウェイ』登録件数：1件

●所有者向けセミナーの開催（3月4日）

参加者：28名（田村会場：20組23名／東京会場：4組5名）
相談会：24組中10組が参加（田村会場：8組／東京会場：2組）

●利活用者向けセミナーの開催（3月23日）

参加者：4名



おすすめ物件



(3) メディア掲載・情報発信業務

出張相談、YADOKARI社提供『空き家ゲートウェイ』の導入について情報を発信し、所有者への周知活動を実施。

●空き家バンクへの動線を整備

『空き家の窓口ホームページ』の物件情報の掲載方法を田村市の空き家・空き地情報バンクのページへ一本化

●市内回覧板での周知

●地元新聞による情報掲載

福島民報（1月31日）
福島民友（2月21日）

●SNS発信【Facebook】（4月～3月）

発信回数：26回／ページフォロワー数：102(前年比：+4)



(4) 空き家事業を担う体制の構築とリノベーション実施に向けたサポート

地域事業者と協力体制の構築を担う。田村市内に所在する市内事業者を中心に紹介を行い、希望者へリノベーション実施に向けたサポートを行う。

●地域事業者との連携、訪問、周知活動

3月4日所有者セミナーでは、株式会社アップポイントの代表を講師にお招きし地域のリアルな情報を共有。田村地域内の16業者へ通知し、うち3社が出席した。

→田村産業株式会社（船引町）、ハウジングスタイル株式会社（船引町）、株式会社ALIVE（郡山市）

●市内事業者を中心とした専門事業者の紹介、サポート

仮設・建築・電気・給排水・左官・屋根・土木・コンクリート工事全般の対応ができる市内事業者と協力関係を構築し、相談者とのマッチングを行う。

→石井建築（船引町）、株式会社柳沼住建（船引町）、大和コウケン株式会社（常葉町）



株式会社柳沼住建



(5) 空き家所有者と利活用者との個別マッチング

利活用意向がある空き家の所有者と利活用希望者との仲介役として、見学日程の調整や当日のアテンドサポート等を行い、空き家問題解決につなげる。

●空き家所有者へのアプローチ

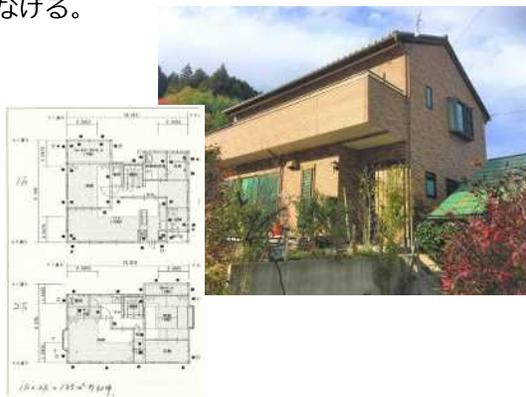
- ・空き家の情報収集
- ・報告書、簡易図面の作成
- ・見学日時の調整

●利活用希望者へのアプローチ

- ・ヒアリングと物件情報の提供

●令和4年度成約件数：累計7件（前年度比：+4件）

- ・移住者／4組（計13名）
- （家族構成／世帯：3、単身者：1）



(6) 個別対応／マッチング前後の継続的サポート

移住検討段階から移住決定後の長期的な関係性を構築し、利活用者の定住に向けたサポートを担う。所有者、利活用者の一人一人に合わせた丁寧な対応を実施。

●空き家所有者へのサポート

- ・利活用者からの問い合わせ・要望についての相談、調整
- ・不安事の解消
- ・利活用者との関係構築

●利活用者へのサポート

- ・悩みや不安の解消
- ・契約前後の手続き
- ・移住に向けた準備
- ・補助金のご案内や提案、補助金担当者との連絡調整
- ・取材の調整



03 隊員の活動状況

③空き家対策/コミュニティ形成
佐々木 馨

(1) 空き家の情報収集業務

田村地域における空き家の掘り起こしを目的としたイベントの企画・運営を担う。

●田村市空き家活用セミナー（賃貸・売却編）の開催

令和5年3月4日(土)13:00~15:00

田村会場/テラス石森

東京会場/田村市・東京リクルートセンター

講師：株式会社アップポイント 代表 佐久間 幸彦 氏

参加者：28名（田村会場：20組23名／東京会場：4組5名）

相談会：24組中10組が参加（田村会場：8組／東京会場：2組）

空き家情報の掘り起こし：7件



(2) 空き家所有者と利活用者の相談対応業務

空き家所有者と利活用希望者双方の相談対応及びマッチングサポートの実施。

●令和4年度相談対応件数：累計16件

【内訳】所有者相談：6件(売却5件、賃貸1件)

利活用希望：10件(購入5件、賃貸5件)

●令和4年度空き家空き地情報バンク登録件数:5件

空き家バンク登録の説明、現地調査、報告書作成の一連の業務を担う。

●令和4年度利活用希望者の現地アテンド対応：累計6件

●令和4年度成約件数：累計1件



(3) 地域コミュニティの形成を目的とするイベント開催

田村地域の子育て世代を対象とする親子参加型の自然体験イベントの企画・運営。

●自然体験イベント「もりのび」の企画・運営

イベント実施回数：全8回

会場：スカイパレス時の輪下、tokiwa+、農家民宿みちくさ「遊びの森」

延べ参加者数：92名

●イベント出展「イシモリフェス」

親子で竹灯籠をつくるワークショップ

日時：令和4年12月17日(土)

会場：テレワークセンターテラス石森

参加者数：34名



(4) 中学生を対象とした地域への愛着醸成を目指すワークショップ開催

田村市が住み続けたいまち、戻ってきたいまちになることを目指し、市内中学生に意見を募るワークショップの企画・運営。

●次世代移住定住会議

日時：令和5年3月18日(土)

会場：田村市役所107多目的ホール

参加者数：19名

「田村市が住み続けたいまちであるためにあったらいいなと思うもの・こと」を話し合い、そこで出た意見をもとにして「自分たちが実践できること・したいこと」をまとめ、発表。

